

## 第3回 オープンサイエンス推進に関するフォローアップ検討会

## 議事概要

1. 日 時：平成27年11月12日（木）17:00～19:00

2. 場 所：中央合同庁舎8号館6階 623会議室

3. 出席者：（敬称略）

有川（座長）、喜連川（副座長）、黒川、小島、末吉、高木、谷藤、林、引原、藤井、村山の各構成員、原山総合科学技術・イノベーション会議議員、森本統括官、笹井参事官、真子補佐、須田補佐、小谷補佐

## 1. 議事

## （1）プレゼンテーション

4名の有識者から、オープンサイエンス推進に向けた取組について、プレゼンテーションが行われた。

- ・ 「R D A 第6回全体会合及びCODATAジャパンデータサイテーションワークショップの概要」（村山構成員）
- ・ 「米国オープンアクセス助成機関会合への参加について」（林構成員）
- ・ 「国際研究者識別子O R C I Dの動向について」（ORCID 宮入暢子 Regional Director Asia Pacific）
- ・ 「オープンサイエンスへの取組」（日本学術会議オープンサイエンスの取組に関する検討委員会 土井美和子委員長）

## （2）事務局説明

事務局より、今後重点的に検討すべき課題等について説明があった。

## （3）主な意見等

上記のプレゼンテーション及び事務局説明を踏まえた意見交換が行われた。

（諸外国のオープンサイエンス推進に向けた取組例について）

- 諸外国の研究機関や資金配分機関等におけるオープンサイエンス推進に向けた取組状況

においては、各研究分野における研究基盤の整備が見込まれてきちんと活用できることが明らかになれば、研究データ基盤を整え、その他研究分野に波及させていくといった考えがあるようだ。

- 研究基盤開発の予算は他の各研究領域と協調しつつ、各研究分野とその基盤と同時に予算の確保に向けた取組と並行して活動を続けるという印象を受ける。諸外国の事例に学ぶべきところは多くある。

(日本がオープンサイエンスを推進する上での留意事項について)

- 研究者がオープンサイエンスを取組にあたって、研究サイクル全体の中において、どこ何をしなければならないのかというフレームワークの策定が必要である。
- 研究者情報等を格納するデータベースは複数存在しており、データベースへのデータ格納作業の飽和や重複とならないよう、データベース間の情報共有を可能とするインタフェースについての議論が必要。
- 識別子の問題について、個人に対して一つのIDを付することが非常に重要である一方で、研究者として過去に研究に取り組んでいたデータ等に対してどう遡及するのが課題である。
- たとえば、学会誌には投稿規定があり、オープンサイエンスを取組前提に作られている規定ではないことから、仮に学協会がオープンサイエンスを取組ことになると、将来的には、過去の学会誌等の取扱いについて、遡及の問題、つまり、遡及してオープンサイエンスを適用する問題が生じる。オープンサイエンスを推進するにあたって、この遡及問題があり、そのために、著作権法改正などによる手当を検討しなければならない。
- 著作権とは別の観点ではあるが、ライフサイエンス分野においてはゲノム情報が個人識別符号ではないかという議論があり、ゲノム研究のための情報流通とオープンサイエンスの推進について衝突が起きる可能性もなくはないのではないか。

#### 4. その他

次回の会議日程については、日程調整の上、連絡する。